

まさかの出国中止

今回から始まるのは2016年のスペイン巡礼記です。しかし、この時は成田での大騒動があまりにも印象が強く、歩いたときのことを忘れてしまっている位です！なので、今号も歩いた報告ではなく、やっとの思いでスタート地点に着いたところまでです。まだまだいろいろあったのですが、ともかくこのことをお伝えしないと先に進めません！

前号で2年に渡ったサントアゴ巡礼の道はゴールに到着したので、今回はその2年後の続編報告です。

前回、サントアゴ大聖堂にたどり着き、そこからバスでフィステラまで行きました。途中、バスの中から巡礼路を歩いている人々を見てやっ



ぱり歩いていかなくちやね... と思い、フィステラームシアまでの巡礼路を歩くことにしたので。

夢のような計画

今回は私たちのカメラマンの匠・フジケンがちょうどその時、サントアゴに滞在している時だったので、そこで落ち合い、バル街で会食！という夢のようなスケジュール。さらに旅の最後にはちょうどこの時期にバルセロナに行っている友人から「当地で会いましょう」と踊りだしたくなるような申し出もあったので、急遽、サントアゴからバルセロナに立ち寄る予定を加えて、いざ出発！

今回で3回目のスペイン行。「もうベテランだね」と余裕の態度？でも家を出て、駅に着いたら必需品の三度笠を

忘れていることに気づき、早くも失敗第一号。

でも、この先に一大事件が待ち受けているとは思ってもよらない2人でした。

成田空港の近くのホテルに宿泊、今回はKLMでアムステルダム経由のマドリッド行き格安往復チケットを購入してしまいました。出発の午前10時半に合わせてホテル発8時のバスに乗り、空港ターミナルへ。Eチケットを搭乗券に換え、荷物は機内持ち込みのリュックだけなので、チェックイン完了。まず朝食です。

イヤな予感...

食後、「ここでユーロに換金しておこう」と銀行の窓口にも並びましたが、その列がとて長く嫌な感じがしました... やつと終わると、あと30分位しかありません。焦って出国手続き。荷物検査をしているときにKLMの地上勤務員の方がやって来て私たちの名前を呼び、「急いでください」と急かします。私はスムーズに通過したものの、周平がひっかかり、持ち物のリュックの中身を出させられているのです。リュックの一番奥のシュラフまで！ギューツと詰め込んであるシュラフは引っぱり出すと膨れ上がり、またしまうのも大変です。

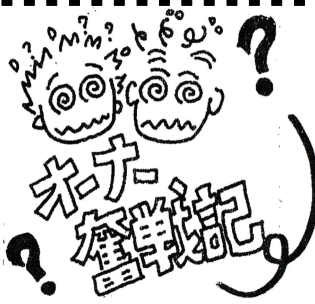
「とりあえず一人だけでも来てください」と職員に促され、私だけ搭乗口へ。10分前からもう扉を閉めまますと言われる度に「もう少し！」「今来ます！」と懇願。しかし、荷物がはみ出たままのリュックを背負って周平が駆けつける直前に無情にも扉は閉められたのでした... 呆然と立ちすくしている私を見て、周平も状況を悟ったようでした。

今日中にスペインに行きたい！と食い下がり、KLMの職員も「提携しているエールフランスに振り替えてもらえませんか問い合わせています」との返事。しかし、「パリまでは飛びますが、ストライキ中なのでマドリッドまでの発券はできません!!」

再び日本!?

「手続き上、あなた達はいつたん出国されているので、もう一度日本に再入国して、改めてチケットを購入してください... この事態をどう受け止めていいのか、もう頭の中は真っ白です。倉庫のような雑然とした部屋に誘導され、小さなBOXの中の係員からパスポートに「出国中止」の判子を捺され、「日本」に戻ってきたのです。

無言館再訪の巻



長野県上田市の郊外、塩田平を望む丘の上に建つ「無言館」には絵描きを夢見ながら志半ばで戦場に散った

学生たちが残した絵や葉書などが展示されています。館長の窪島誠一郎さんが、日本各地に遺族を訪ね、大切に守ってきた絵を譲り受けてこの美術館を開館したそうです。

2003年に初めてここを訪れた時から、もう一度行きたいと思いつき、今回「八ヶ岳歩こう会」の例会として企画、36人の仲間と行ってきました。別所温泉を起点に晩秋の塩田平を歩き、お蕎麦を食べ、ゴールの無言館で若き絵描きたちが遺した形見のような絵をひとつひとつ見てきました。大勢参加して下さったので、バス代の余剰を「絵繕い基金」に寄付することもできました。

スマホの画面と格闘!

さあ、その後が大変! まずチケットを購入した旅行会社(HIS)に連絡しました。「帰りのチケットは生きているんですよ」の問いに「いいえ、往復のセットなので帰日もキャンセル扱いになります。新たにチケットが必要になります」

「えッ、そんなあ...」

数分押し問答していると、電話の向こうで話の分かる(?)社員と変わり「お宅様の場合は事情が事情なので、違約金として1人、3万円支払えば、チケット代金は戻ります」と言ってくれました。6万円も大金ですが、20数万円が返らないよりはマシと少しホッとしました。

次はマドリッドまでの航空チケット、何とか遅くとも明日中には着きたい。色々調べてくれていましたが、結局、翌日の午後1時のアリアリア航空のローマ経由マドリッド行きのチケットが取れました。なんと、その手続きを、スマートフォンでしなければなりません。小さな画面で、パスポートの番号や住所や生年月日等を2人分打ち込むのが至難の技です。何度も間違えながら一心不乱に小さいキーと画面を睨みながら、新しいチケットの予約の作業を進めました。

うらへつづく

表からつづく

なんとか終わった！ホッと
して隣に立っている周平を見
てハッとしました。時間は午
後2時半位です。普段は正午
近くになると「今日のお昼は
何食べる」とうるさく言う周
平に「お腹すいてないの？」
と尋ねると「すいてるよお〜」

「でも、一心不乱でスマホの
画面に打ち込んでいる時にお
腹がすいた、なんて言ったら
はじきとばされそうだったよ」
と泣かんばかり。

「こんな時によく食べられ
るな・・・」と思つたものの、
空港内のレストランに駆け込
みました。その後も、チケット
ト代を現金で振り込んだり、
その日の宿を予約したり、マ
ドリードのホテルのキャンセル、
明日の予約等々・・・ま
だまだいろいろな手続きが必
要でした。成田空港近くのホ
テルがとれたのでEチケット
はホテルのFAXに送っても
らいました。

ローマでパスタ?

翌朝、アリタリア航空で出
発。ローマ空港で6時間ほど
の待ち時間がありました。乗
り換えが良く分からずにな
ウロウロしました。ここで
も周平は「せっかくローマに
いるんだからパスタを食べよ

う」と元気。私はぐったり。

(このパスタ注文)も失敗の
一つ) マドリードの空港か
らタクシーでホテルに着いた
のは現地時間の深夜1時頃。

トゥーアーリー!?

次の日9時15分発の列車で
コンポステラまで行かない
と、「夢のような会食」は文
字通り儂い夢となって消え去っ
てしまいます。ホテルの受付
の人にチャマルティン駅まで
タクシーでかかる時間を尋ね
ると「20分、渋滞時でも30分」
との答え。「では7時にタク
シーをお願いします」と頼む
と、目を丸くして「トゥーアー
リー!」。8時でも十分と言
います。しかし、予約してい
た列車のチケットは失効、改
めて購入の必要もあり、ブレ
ずに(?)7時に呼んでもら
いました。実際、切符売り場
を探してウロウロ、さらに間
違ったホームでしばらくボクッ
と待っていて、どうもおかし
いと気付き、あわてて正しい
ホームに駆けつけたりと、ちっ
とも「トゥーアーリー」では
なく、大正解。

ようやく列車に乗り込み、
6時間後にコンポステラ着。
フジケンたちが泊まっている
ホテルをなんとか探し当て、
涙の(!!)再会を果たすこと
ができたのでした!(つづく)

渡嘉敷先生の



No. 47

ボタンボウフウ



「孫次郎、懐かしいあの孫
次郎」。雄山の大噴火があつ
た、あの三宅島でたいへんお
世話になった孫次郎。今どう
しているだろう。孫次郎は孫
ではない、次郎でもない。三
宅島では「ボタンボウフウ」
を「まごじろう」と呼んで
いる。かつて三宅島阿古村の
海岸で、溶岩の隙間に生える
「まごじろう」の若葉を、よ
く摘んだものだった。終戦翌
年の春、物の乏しかった暮ら
しのなかで、毎日のように海
岸に生えている「まごじろう」
を摘んできては、ゆでてお浸
しにしたものだ。独特の香り



ボタンボウフウ (牧新2082)

をもっており、お浸しにする
と、隠し味とも言いたい、しっ
かりした味があり、鯉節を載
せなくて充分味わえる。葉は
厚みがあつて歯ざわりもよく、
噛み応えがよい。

葉の似ている(マボウフウ
は、一般にはせいぜい刺身の
つまみに添えられるくらいで、
あつてもなくてもよさそうに
思えるが、ボタンボウフウは
そんな代物ではない。使い方
によっては小松菜やホウレン
ソウなど葉菜を凌ぐ味わいが
あり、暮らしに大いに役立つ。
やがてアシタバのように、栽
培が進んで列記とした野菜に
なるかもしれない。

生育できる環境条件もそう
難しいものではない。三宅島
では溶岩の割れ目にミハラ
イタドリ、アシタバ、ラセイタ
ソウなどと一緒に育ち、年中
潮風に吹かれ、養分の乏しい
岩場に多く見られる。臨海地
に多いのは三宅島に限らず、
伊豆諸島、伊豆半島、三浦半

島などでも同様である。※1
しかしながら、必ずしも岩の
隙間を好適地としているわけ
ではない。石垣島、竹富島な
ど琉球列島の島々では、岩場
や砂地はもとより、海岸線か
ら離れた人里でもごく普通に
見られ、生育がよい。石垣島
を訪れた折、伊原間の宿の庭
で初めて大株を見て、葉のあ
まりの大きさに我が目を疑つ
たほどである。三宅島や三浦
半島で小ぶりの株しか見てい
ない私には、ボタンボウフウ
とは別種ではないか、あるいは
は品種改良の手の加えられた
ものではないかとさえ思えた
沖繩ではボタンボウフウを
広く「長命草」(ちようみー
ぐさ)と称し、※2古くから
健康長寿の植物として葉を食
用に、あるいは根を薬用に用
いている。*3今もなお、子
孫繁栄、五穀豊穰、航海安全
などを祈願する「まちり」の
祭祀に、供物として欠かせな
いもので、ボタンボウフウの
存在は大きい。また、いにし
への琉球王朝の時代には、
「サフナの白和え」と称し、
高級料理にも用いられていた。
それゆえ、住まいの近くに大
いに植えられ、半栽培※4の
状態で見られるのは当然で、
ボタンボウフウの有用性を物
語っている。

このように、沖繩ではボタ

ンボウフウと暮らしとの関わ
りは古くから深く、長い歴史
があるが、昨今さらに深まり
与那国島では葉草として本格
的に栽培されている。大いに
発展して化粧品大手の資生堂
と提携し、ボタンボウフウは
美容液「ハイドロロジーニクス」
の原料になっている。栽培心
2000年代に始まり、生産
者は2016年現在60軒をこ
えて、ボタンボウフウの栽培
は、与那国島の主産業になつ
て、いつしか島を支えている。
長命草、まさに長命。有用
性高く、その歴史古くして士
だ新たに。

※1 暖帯、亜熱帯に広く分
布し、日本では太平洋側は
関東以西、日本海側は石川
県以西、四国、九州、琉球
に自生する。なお、朝鮮南
部、中国、台湾、フィリピ
ンに分布する。
※2 沖繩では広く「さふな」
とも呼ばれ、なお与那国島
では「ぐんな」ともいう。
※3 ポリフェノール、カル
シウム、ビタミン、鉄分が
豊富に含まれている。
太くなった主根を朝鮮人心
の代用に用いている。

※4 半栽培とは「野生植物
の利用段階から栽培植物に
いたる中間の段階の植物」